

刈谷市消防団は昭和25年の市制施行とともに誕生し、以来70年近く地域に密着して、まちの安全を守ってきました。消防団としての誇りと伝統は今も変わらず受け継がれています。

今回の特集では、消防団の活動内容や、実際に活動している消防団員の思いを紹介します。地域のために何かしたいと思っている人も、消防団に興味はあるけれど入団を迷っている人も、まずは消防団について知り、一步を踏み出してみませんか。

消防団とは

地域住民を守るために活動している消防団。消防活動を職業としている消防士とは違い、普段それぞれの職業に就き、災害が発生すると、災害現場に出勤します。火災が発生した時は消防ポンプ車で素早く現場に駆け付け、消防署と協力して消火活動、避難誘導、交通整理などを行います。また、台風などによる警報発令時には消防ポンプ車で巡視、広報などを行っています。

日頃の活動としては、地区の防災訓練をはじめとした啓発活動や祭りの警備、地区の巡回を行います。地域に密着した活動を通して、地域とのつながりが深まります。

防災力の要

東日本大震災をはじめ、全国各地で災害が発生した際には、多くの消防団員が住民の避難支援、被災者の救出・救助などの活動を行い、大きな成果を上げました。今後も大規模地震の発生が懸念されており、地域防災力の中核である消防団には、代替性のない存在として、ますます防災力の向上が求められています。それを受け、刈谷市消防団は装備を充実させ、取扱訓練などを実施し、震災時に刈谷市の防災力の要として活動ができるように備えています。

女性も、学生も

消防団員といえば男性をイメージしがちですが、全国では2万人、刈谷市消防団では8人の女性団員が日々まちの安全のために活動しています。

また、18歳以上であれば入団できるため、現在35人の学生が学業に励みながら消防団員として活躍しています。

刈谷市消防団

団員数 363人

分団数 21個分団

平均年齢 30.1歳

(31年1月1日現在)

消防団特集

消防団に懸ける思い

